

日 時	平成**年**月**日（*曜日）9:40～10:30	場所	体育館
指導者	〇〇(T 1) 〇〇(T 2) 〇〇(T 3) 〇〇(T 4) 〇〇(T 5) 〇〇(T 6) 〇〇(T 7) 〇〇(T 8) 〇〇(T 9)		
単元名	バスケットボールをしよう		
単元 設定の理由	<p>本グループは中学部1年生から3年生の計16名で構成されている。自分から積極的に身体を動かすことは少ないが、体育の授業で興味関心もてるような工夫を取り入れながらキックベースやティーボール、サッカーなどに取り組む中で、ボール運動に親しむ姿が見られた。その一方で、基本的なボール操作（パス、シュート、ドリブル）の技術や、友達と連携して得点につなげる経験が浅いことが課題として挙げられる。</p> <p>上記のような生徒の実態から、ボールを用いた一つ一つの動きが得点につながり、友達と力を合わせながら取り組むことができるゴール型ゲームのバスケットボールを設定した。ゴール型ゲームの特性として、パスやドリブルでボールをつなげ、正確にシュートを打つこと、決められた枠にゴールすることで得点になるという分かりやすいルールが挙げられる。今回扱うバスケットボールは、手を使った様々なボール操作ができることに加え、得点するために友達と協力する必要がある競技と考える。本単元に関連する特別支援学校学習指導要領中学部保健体育科の指導内容として(1)「体づくり運動、簡単なスポーツ、ダンスなどの運動をする」、中学校学習指導要領保健体育科 E 球技(2)「互いに協力して、練習やゲームができるようにする」がある。</p> <p>指導にあたり、練習場面ではそれぞれの実態に合わせた練習ができるように、グループを2つに分けた。使用するボールについても、実態に応じてソフトバレーボールを使う等の配慮をした。練習するにあたっては、ゴールのネットに鈴を付けシュートが入ると音が鳴るようにしたり、的にボールが当たると絵が出てきたりするといった工夫をした。それにより生徒たちが「シュートが入った」「パスをした」などの実感が得られ、「もっとやりたい」と感じ、楽しみながらボール操作ができるようにした。また、ペアで行うゲームを取り入れることで、練習してきたボール操作を組み合わせて得点することを実感できるようにした。さらに、友達を意識できるように、授業の後半にペアでのミニゲームを入れたり、単元の中盤からは活動全体をペアで活動したりするようにした。技術面における指導の工夫として、ポイントを絞った具体的な言葉かけ、教師の示範、体の動かし方を一緒に行う等の手立てを心がけた。これらの支援に加え、動きの理解を促したり、ボールの軌道をイメージしたりできるように、オノマトペを用いた言葉かけも取り入れた。以上のことから、ペアの友達と一緒に楽しむことを基盤としながらボール運動における技能の向上を目指し、練習やゲームを重ねていく中で主体的に運動できるようにしたいと考え、本単元を設定した。</p>		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達や教師と一緒に練習やゲームに取り組むことができる。(関心・意欲・態度)</li> <li>・ 練習のやり方やゲームのルールを正しく理解して行うことができる。(思考・判断・表現)</li> <li>・ 友達にパスしたり、ドリブルでボールを運んだり、シュートで得点したりすることができる。(技能)</li> </ul>		
指導計画 (7時間扱い)	<p>第1次 バスケットボールの練習をしよう・・・3時間</p> <p>第2次 バスケットボールのゲームをしよう・・・4時間（本時は第2時）</p>		

[本時の指導]

1 全体目標

- A ペアの友達と練習やゲームに取り組むことができる。(関心・意欲・態度)  
 B ポジションに応じたボール操作をしようとすることができる(思考・判断・表現)  
 C 練習の中でパス, ドリブル, シュートなどができる。(技能)

2 生徒の実態及び個別目標等 ※自立活動に関することは, 番号をつける。(例: < 1 - (1) >)

担当生徒 学年 性別	生徒の実態			個別目標	主な指導場面 評価方法
	ボール運動に取り組むことができる。	指示通りにボール操作をしようとすることができる。	簡単なボール操作ができる。(転がす, つく, 投げる, 渡す)		
A 1年 *	○ 教師と一緒にであれば, ボール運動に取り組むことができる。	△ ジェスチャーを交えた1つの指示であれば, ボール操作ができる。	△ 的やゴールがあれば, その方向に転がすことができる。	B ゲーム中の後半2分間で, 繰り返し籠からボールを取ってペアの友達にパスしようとする C 練習場面で3回以上, 2m離れたゴールにシュートすることができる。	ゲーム (観察・記録) 練習 (観察・記録)
B 1年 *	△ 興味のある活動であり, 教師と一緒にであれば, ボール運動に取り組むことができる。	○ 視覚的に2つの指示を出せば, ボール操作ができる。	○ 弾みやすいボールであればつくことができる。	A 練習場面で1分以上, 繰り返しペアの友達にボールを渡そうと C ゲーム場面で3回以上, 2mドリブルしてボールを運ぶことができる。	練習 (観察・記録) ゲーム (観察・記録)
C 1年 *	◎	○ 実際に手本を見せながら2つの指示を出せば, ボール操作ができる。	○ 両手でオーバースローをすることができる。	B ゲームを始めてから最後まで, 繰り返し籠からボールを取ってペアの友達にパスしよう C 準備運動場面で, その場で2回続けてボールをつくことができる。	ゲーム (観察・記録) 準備運動 (観察・記録)
D 2年 *	○ 教師と一緒にであれば, ボール運動に取り組むことができる。	△ 手本を見せながらの1つの指示であれば, ボール操作ができる。	○ 手に収まるボールであれば, 上から投げることができる。	B ゲーム場面で, 友達の言葉かけを聞いて, ペアの友達に向かってチェストパスを C 準備運動場面で, 連続して3回以上ボールをつくことができる。	ゲーム (観察) 準備運動 (観察・記録)
E 2年 *	○ 教師と一緒にであれば, ボール運動に取り組むことができる。	△ 繰り返し取り組んだことのある操作であれば, 1つの指示を聞いてボール操作を行う C ゲーム場面で, 3m先の目的地までボールをドリブルすることができる。	◎	B ゲーム場面で, 3回以上ペアの友達からボールをもらった後, 自分からドリブルを始め C ゲーム場面で, 3m先の目的地までボールをドリブルすることができる。	ゲーム (観察・記録) ゲーム (観察・記録)
F 2年 *	◎	○ ジェスチャーを交えた2つの指示であれば, ボール操作をすることができる。	◎	A 練習を始めてから最後まで, 繰り返しペアの友達にボールを渡そう B ゲーム場面で, 教師の間接的な指示を聞いて, ペアの友達に向かってパス C ゲーム場面で, 3回以上友達に向かってチェストパス	練習 (観察) ゲーム (観察)
G 2年 *	◎	○ 手本を見せながらの2つの指示であれば, ボール操作ができる。	○ 的やボールがあれば, チェストパスをすることができる。	B ゲームを始めてから最後まで, 繰り返し籠からボールを取ってペアの友達にパス C ゲーム場面で, 3回以上友達に向かってチェストパス	ゲーム (観察) ゲーム (観察・記録)
H 2年 *	△ 興味のある活動であり, 教師と一緒にであれば, ボール運動に取り組むことができる。	△ 個別に1つの指示を出せば, ボール操作ができる。	◎	A 練習場面で1分以上, 繰り返しペアの友達にボールを渡そう B ゲームを始めてから最後まで, 繰り返し友達からパスをもらった後に自分からドリブルをしてシュート	練習 (観察・記録) ゲーム (観察)

I 2年 *	△ 気持ちが安定しており、教師と一緒にあれば、ボール運動に取り組むことができる。	○ 手本を見せながらの2つの指示であれば、ボール操作ができる。	◎	A 練習場面で2分以上、繰り返しペアの友達からボールをもらってシュートしようとするすることができる。 B ゲーム場面で、教師と一緒にドリブルをしてシュートしようとするすることができる。	練習 (観察・記録) ゲーム (観察)
J 2年 *	△ 気持ちが安定しており、教師と一緒にあれば、ボール運動に取り組むことができる。	○ ジェスチャーを交えた2つの指示であれば、ボール操作ができる。	◎	A 練習を始めてから最後まで、繰り返しペアの友達からボールをもらってシュートする運動をしようとするすることができる。 B ゲームを始めてから最後まで、繰り返し友達からパスをもらった後に自分からドリブルをしてシュートしようとするすることができる。	練習 (観察) ゲーム (観察・記録)
K 2年 *	△ 興味のある活動であり、教師と一緒にあれば、ボール運動に取り組むことができる。	△ 手本を見せながらの1つの指示であれば、ボール操作ができる。	○ 弾みやすいボールであれば、4回程度つくことができる。 的があれば、バウンドでのパスができる。	B ゲーム場面で、教師の指示を聞いて、友達に向かってボールを投げようとするすることができる。 C 準備運動場面で、連続して5回以上ボールをつくことができる。	ゲーム (観察) 準備運動 (観察・記録)
L 3年 *	◎	◎	○ その場であれば、10回程度ボールをつくことができる。	A ボールを受け取るときに、ペアの友だちの方を向いて名前を呼ぶことができる。 C ゲーム場面で3回以上、ドリブルをしながら1m歩くことができる。	ゲーム (観察) ゲーム (観察・記録)
M 3年 *	◎	◎	○ その場であれば、10回程度ボールをつくことができる。	B ゲームを始めてから最後まで、繰り返しパスをもらった後に自分からドリブルをしてシュートしようとするすることができる。 C ゲーム場面で、ドリブルをしながら1m歩くことができる。	ゲーム (観察) ゲーム (観察・記録)
N 3年 *	◎	◎	○ その場であれば、10回程度ボールをつくことができる。	A ペアの友だちを誘い、並ぶことができる。 C ゲーム場面で3回以上、ドリブルをしながら1m歩くことができる。	導入 (観察) ゲーム (観察・記録)
O 3年 *	△ 気持ちが安定しており、教師と一緒にあれば、ボール運動に取り組むことができる。	△ ジェスチャーを交えた1つの指示であれば、ボール操作ができる。	△ 的やゴールがあれば、その方向に転がすことができる。	B ゲーム場面で、ジェスチャーを交えた指示を受けて2回以上友達にボールを渡そうとするすることができる。 C 練習場面で、ペアの友達に向かって、ボールを転がしたり投げたりすることができる。	ゲーム (観察・記録) 練習 (観察・記録)
P 3年 *	◎	○ 手本を見せながらの2つの指示であれば、ボール操作ができる。	○ 的やゴールがあれば、ボールを転がしたり、投げたりすることができる。	B ゲーム場面で3回以上、友達に向かってパスしようとするすることができる。 C 練習場面で3回以上、2m先のゴールに下手投げでシュートすることができる。	ゲーム (観察・記録) 練習 (観察・記録)

### 【評価基準】

A ボール運動に取り組むことができる。

◎いつでもできる ○3つの活動中2つできる △3つの活動中1つできる

B 指示を聞いてボール操作ができる。

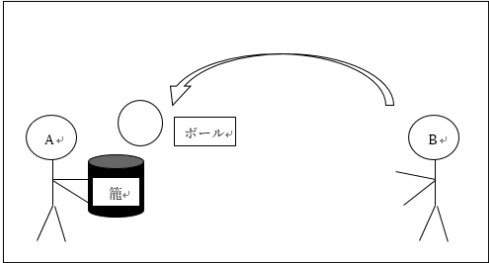
◎3つの指示を聞いてできる ○2つの指示を聞いてできる △1つの指示を聞いてできる

C 簡単なボール操作ができる。(捕る、つく、上手投げ)

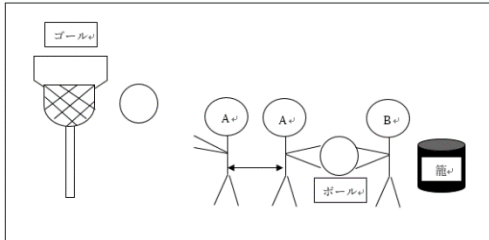
◎4つできる ○4つのうち2つできる △1つできる

3 展開 ※自立活動に関する場合は、番号をつける。(例：<1-(1)>)

※形態の表記は 全体：全、 グループ：グ、 個別：個

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て(各Tの役割等) ※評価は□で囲む																				
全 (2)	1 集合する。 (1) ペアごとに整列する。 (2) 始めの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアごとの写真を目印にすることで、整列する場所が分かるようにする。</li> <li>授業の前に健康観察をすることで、安全に運動ができるようにする。&lt;1-(4)&gt;</li> <li>全員で挨拶をすることで、学習の始まりが分かるようにする。</li> </ul>																				
全 (5)	2 本時の学習について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バスケットボールのゲームをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容を知ること、見通しをもって活動できるようにする。&lt;2-(2)&gt;</li> <li>本時の説明でT1の話に意識を向けることが難しい生徒がいたときには、T2以下がT1に注目するように促したり、個別に言葉かけをしたりすることで、T1の話が聞けるようにする。</li> </ul>																				
全 (5)	3 準備運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>指のストレッチをする。</li> <li>T1と同じ方向にボールを動かす。</li> <li>その場でドリブルをする。</li> <li>ボール集めをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指のストレッチをすることで、突き指を防止することができるようになる。</li> <li>ボールを使った準備運動をすることで、ボールに慣れることができるようになる。</li> <li>自分で取り組むことが難しい生徒には、T2以下がT1の動きを見るように言葉かけしたり、隣で示範したりすることで、準備運動ができるようになる。</li> </ul>																				
グ (10)	4 ペアで練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>個別目標を確認する。</li> <li>練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習を始める前に、誰がどの練習をするかを図や顔写真を使って説明することで、視覚的に分かるようにする。</li> <li>イラスト付きの目標確認カードを使いながら本時の目標を確認することで、授業の中で何をどう頑張ればよいのかを意識できるようにする。</li> </ul>																				
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">練習①→練習②</th> <th colspan="2">練習②→練習①</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E・G</td> <td>T1</td> <td>C・I</td> <td>T3</td> </tr> <tr> <td>A・B</td> <td>T2</td> <td>L・O</td> <td>T5</td> </tr> <tr> <td>F・M</td> <td>T6</td> <td>J・K</td> <td>T9</td> </tr> <tr> <td>N・P</td> <td>T7 T8</td> <td>D・H</td> <td>T4</td> </tr> </tbody> </table>	練習①→練習②		練習②→練習①		E・G	T1	C・I	T3	A・B	T2	L・O	T5	F・M	T6	J・K	T9	N・P	T7 T8	D・H	T4	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習①と練習②をやるペアを分けることで、待ち時間をなくし、運動量を確保できるようにする。</li> <li>各練習場所に動きのポイントをイラスト付きで分かるものを置いておくことで、適宜確認しながら練習を行えるようにする。</li> </ul>
練習①→練習②		練習②→練習①																				
E・G	T1	C・I	T3																			
A・B	T2	L・O	T5																			
F・M	T6	J・K	T9																			
N・P	T7 T8	D・H	T4																			
	<p>練習①</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習中、Bが他の活動に気持ちが向いてしまったときには、T2と一緒に何をやる時間なのかを確認することで、やるべき活動に取り組むことができるようにする。</li> <li>LやMに、全体での指示が上手く伝わっていないときには、T6が個別に言葉かけをすることで、指示を理解できるようにする。</li> <li>籠の底に音が鳴る装置のボタンを付けることで、ボールが入ったことが音で分かるようにする。</li> <li>相手をよく見るように言葉かけしたり、指さしたりすることで、相手に注目してパスできるようにする。</li> <li>籠を持つ生徒には、ボールが入りやすいように止まって籠を固定する姿を示範したり、言葉かけをしたりする。</li> <li>ボールを投げる際に下手投げが多い生徒には、上手投げにも挑戦できるように隣で投げ方を見せたり、腕を支えたりして顔の高さで構えて、ボールを投げるフォームをつかめるようにする。</li> <li>上手投げで籠にボールを入れるコツとして「ヒュッ」「ポーン」等、弧を描くイメージをつかめるようなオノマトペを交えて投げ方を伝えるようにする。</li> </ul>																				

練習②

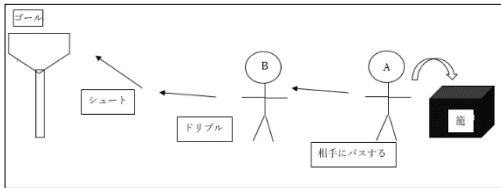


- ・ゴールのバックボードにキャラクターなどを載せておくことで、ねらう場所を分かりやすくする。
- ・脇を開けてシュートを打っている生徒がいたときは、「脇を締めて」などの言葉かけをしたり、教師が手で支えたりすることで、正しいフォームでシュートを打てるようにする。
- ・シュートを打つときは、ゴールのバックボードをねらって打つよう言葉かけすることで、どこをねらって打てばよいかを分かるようにする。
- ・AとBのポジションを交代しながら練習できるようにして、両方の動きをつかんでボール操作ができるようにする。
- ・二人でボールをつなぐような練習を行うことで、ペアで一緒に活動することが意識できるようにする。
- ・Pが移動するときや運動に取り組むときには、T7とT8がつくことで、転倒を防止することができるようにする。
- ・Oが集団から外れたときには、T5とクールダウンの時間を取ってから「一緒にやってみよう」などの言葉かけをすることで、活動に戻れるようにする。

- ・ペアの友達と練習に取り組むことができていたか。  
(関心・意欲・態度〔観察〕)
- ・練習の中でパス、シュートができていたか。  
(技能〔観察〕)

グ  
(15)

5 ゲームをする。



- ・ゲームの前にA、Bそれぞれのポジションで行うボール操作を確認することで、これまで練習してきた一つ一つの動きが生かせるようにする。
- ・たくさん得点することに気持ちが向いてしまい、ボール操作が雑になってしまう場合には「相手を見てパス」「ゆっくりドリブル」等、動きを丁寧に正確に行うことができるような言葉かけをする。
- ・ドリブルがうまく続かないときは「ポンポンポン」とリズムをつかめるような言葉を添えてテンポよくボールをつくことができるようにする。
- ・友達に確実にパスできるようにするため、ボールを渡すときや受け取る時に「ハイ」と互いに言葉を掛け合うように促す。
- ・称賛をする際には、具体的にどこがよかったかをその場で伝えることで、よい動きに気付くことができるようにする。

- ・ペアの友達とゲームに取り組むことができていたか。  
(関心・意欲・態度〔観察〕)
- ・ポジションに応じたボール操作をしようとしてきていたか。(思考・判断・表現〔観察〕)
- ・ゲームの中でパス、シュートができていたか。  
(技能〔観察〕)


全  
(5)

6 振り返りをする。

全  
(5)

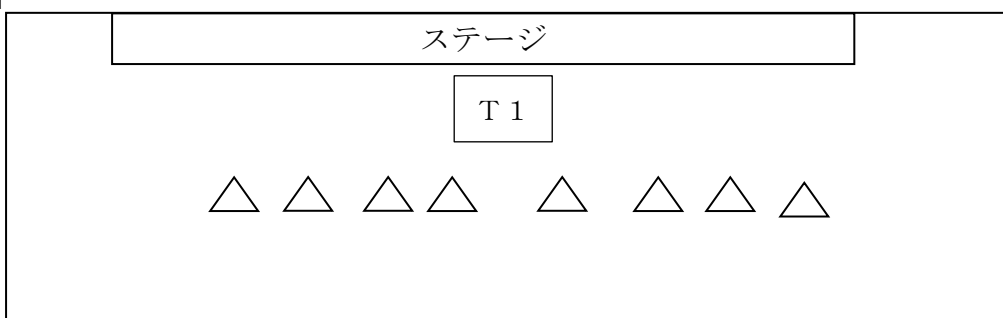
7 整理体操をする。  
\*ペアごとに並び、整理体操をする。

- ・イラスト付きの目標確認カードを使いながら本時の振り返りをするすることで、学習の定着を図れるようにする。
- ・◎、△のシールを使って目標に対してどのくらい頑張ったかを決めることで、生徒が自己評価できるようにする。
- ・整理体操をすることで、使った体の部位をほぐすことができるようにする。
- ・Dが屈伸や伸脚を行うときには、T4が隣につくことで、転倒を防止することができるようにする。
- ・自分で取り組むことが難しい生徒には、隣で示範したり、体操係の生徒を見るよう言葉かけをしたりすることで、整理体操ができるようにする。

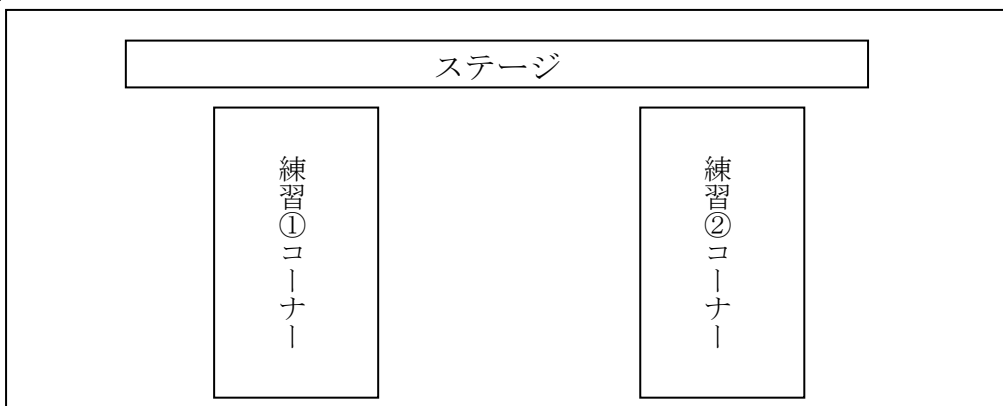
全 (2)	8 次回の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の授業について予告することで、活動に見通しをもつことができるようにする。＜2－(2)＞</li> <li>・正しい姿勢で挨拶をすることで、授業の終わりを意識できるようにする。</li> </ul>
全 (1)	9 終わりの挨拶をする。	
【板書計画(内容確認時)】		【板書計画(ポイント確認時)】
1	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアの友達と一緒に頑張ってたくさん点を取ろう。</li> </ul> 
2	準備運動	
3	練習	
4	ゲーム	
5	振り返り	
6	整理体操	
7	あいさつ	

配置図

【集合時】



【練習時】



【ゲーム時】

